



佐久市地域おこし協力隊 活動報告書

望月地域担当 高木武人

活動テーマ 「小さな物流システムの構築支援等」

委嘱期間 平成28年4月1日～31年3月31日

私のプロフィール



生まれた年

- 平成元年

出身

- 千葉県

経歴

- 法学部政治学科卒

職歴

- 塾講師など

志望動機

- 人とかかわる公共的な仕事をしたかった

私の活動テーマ 「小さな物流システムの構築支援」



「身近な物と人のつながりによる地元経済の活性化や
居心地の良い暮らしを実現するための活動」
- 「新しいシステムを用いた、地域内の人が交わる仕組みづくり」

(募集要項抜粋)

単なる物流システムではない
みたいだけど、どういうことだろう??



着任2ヶ月目 「高木に任せた」

by世話人



まったくゼロの状態から託された

着任1年目:理想と現実の中で…



理想

- みんな地域おこしをしたい
- みんな協力隊に興味関心あり
- みんな好意的、歓迎



現実

- みんな日々の暮らして精一杯
- 協力隊に関心ある住民はごく一部
- 逆に警戒されることもしばしば

理想と現実のギャップ

もっと地域に溶け込めないと…!

着任1年目:地域を知る



右も左もわからないまったくもって新しい土地。次の二つの手段で地域を知ることから始めました。

いきいきサロン

高齢者



- アンケート:慢性的な買い物難民はいない。⇔ 予備軍は多い。物流以外にも困りごとは多い。ちょっとしたことこそ頼みにくい

春日生活新聞

若者



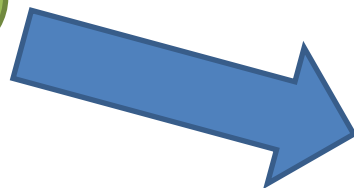
- とてもおとなしい。静かに暮らしている。過疎化に伴う若者への負担増。
- 多様化(都会化)する価値観

着任2年目：紆余曲折



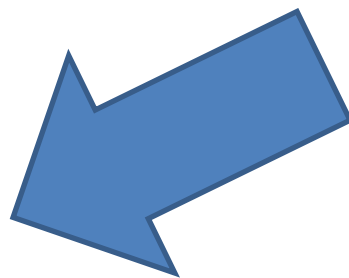
①学校給食応援団 補助

地産地消・物流を学び、動きやすい仕組みを作った。現在も活用されている



②セレクト ショップ構想

物流の拠点づくりを進めた。諸事情により交渉がうまくいかず、頓挫

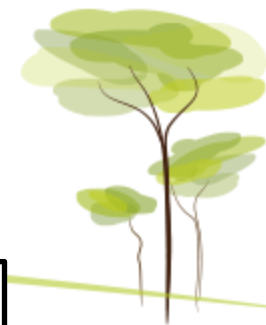


③移動販売車 試験運用

実際に物を移動させる試み。地元の特産品を運ぶ。採算や需要が合わないことなどがネックになる

**地域に必要とされている小さな物流って
なんだろう…**

着任3年目:そして、初心に帰る



いろいろ試した2年目に対して、3年目は初心に帰り、以下の2つの気づきから、3つの要素を活動における柱にしました。

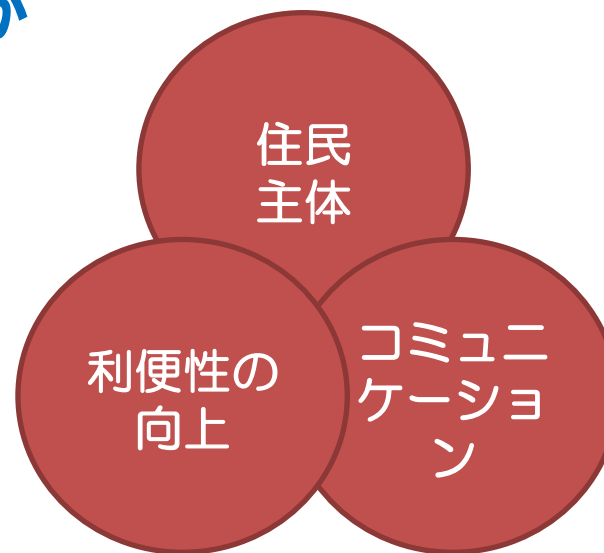
✓ とある移住者の言葉

「(小さな物流は)みんなでできないかな？」

➤ 高木の2つの気づき

1. 「主役は協力隊ではなく
地域住民」

2. 「便利さと同じくらい
コミュニケーションが重要」



どれも大事！

着任3年目:「ついでネット佐久」という選択



先ほどの3つの要素に、地域で感じた要素をさらに加えました。そして、様々な困りごとを「たすけあい」という形で表現できないかと考えました。

高木流「小さな物流」に必要な要素

- 住民主体であること
- 利便性が向上されること
- コミュニケーションがあること
- 小さな物流 + α (モノだけじゃないということ)
- 頼みにくさや居場所の少なさの解消
- 若者の多様性の容認

賛同者現れる!

「たすけあい」という形で表現したい



ついでネット佐久とは



「小さな困りごとをたすけあう**コミュニティ**」

3つのポイント

1. みんなが主役

- する側とされる側を区別しない、お互い様の関係。運営も皆で。

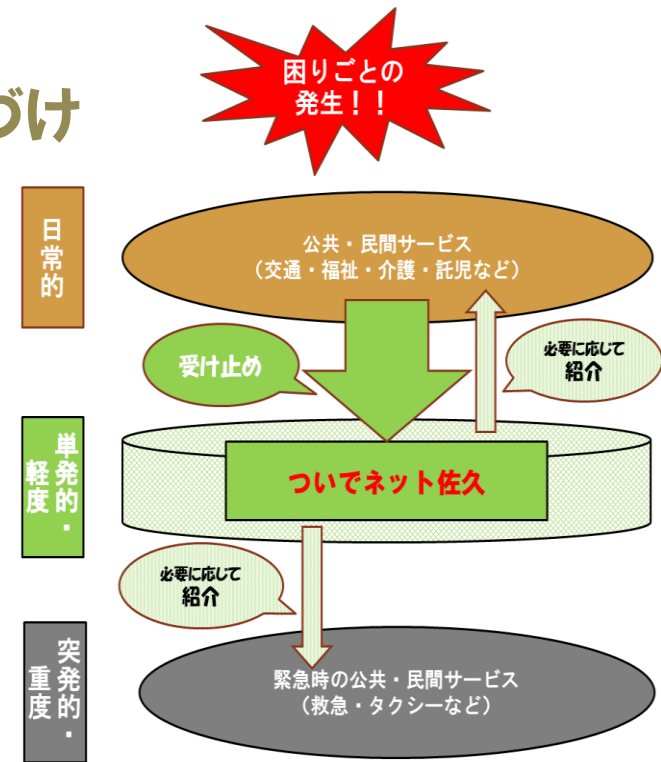
2. 顔の見える関係

- 交流会で直接コミュニケーションを取り、親睦を深める。気軽にたすけあえる関係へ

3. 「ついで」が合言葉

- 自分の好きなタイミングで、無理をしない(部分的協同)

位置づけ



現在、4月1日からの本運用に向けて、20名程度で試験運用中

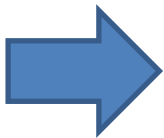
「小さな物流システム」は、
物流だけでなく、住民主体による、生活全般の豊かさを追求する仕組みとなった。

ついでネットを通して:なぜ、いまこそ共助が大切なのか



共助が壊されていくまで(一側面)

- 2000年代以降、新自由主義に基づく構造改革による過度な競争主義・規制緩和
- 非正規・派遣労働者の急増。ワーキングプア。3割近くが年収200万円以下
- 共働き世帯の増加。貧乏暇なし。格差の拡大
- 共助(たすけあい)が成り立ちにくい社会に
- 困りごとがあっても「自己責任」。自殺者増加

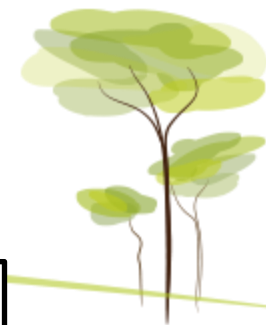


×単なる時代の変化

⇒政策の結果

- ✓ 今こそ、共助を。今こそ、ついでネットを。

終わりに



本当に多くの方に支えられました。まさに、地域おこし協力隊としての醍醐味を味わうことができたと思っています。3年間、ありがとうございました。今後も、実生活に根差した住民主体の「ついでネット佐久」が少しでも地域に役に立つように「協力」して参ります。引き続きよろしくお願いいたします。

